

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	38	事業名	障がい者福祉事業	担当部課	福祉部福祉課
------	----	-----	----------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	4	障害者が暮らしやすいまちをつくる	款	3	民生費
		施策の進め方	—		項	1	社会福祉費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	4	身体障がい者福祉費
		政策分類	—		大事業	2	障がい者福祉事業
	その他(関係法令、要綱等)		長久手市障がい者社会見学事業助成金交付要綱				
事業開始の背景、経緯等		障害者の社会参加の促進や自立した生活を支援するため実施					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 障がい者の社会参加の促進や自立した生活支援をすることを目的に、障がい者作業施設外での就労を推進し、障がい者を支援する団体が実施する社会見学事業に対する補助を行う。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 障がい者および障害者の社会参加の促進や自立した生活を支援することを目的として活動する団体					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 障がい者の社会参加や外出機会を創出するために活動する団体の活性化を支援する					
	事業を構成する事務事業	① 障がい者福祉事務事業	② 心身障がい者社会見学事業	③ 障がい援護事業	④ 障がい者計画策定・評価事業	⑤	⑥

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	予算	—	—	—	74,441	75,391
決算				—	—	—	73,626	
人件費(B)	千円	決算	—	—	—	12,221	—	
			総コスト(A)+(B)	千円	決算	—	—	—

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 施設外就労依頼件数	件	目標	—	—	—	42	120
			実績	—	—	—	54	—
	B 心身障がい者社会見学申請団体数	団体	目標	—	3.0	3.0	3.0	3.0
実績			—	1.0	2.0	2.0	2.0	
C 福祉有償運送講習会参加者数	人	目標	—	—	15.0	15.0	15.0	
		実績	—	—	18.0	10.0	—	

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 施設外就労の依頼件数により障がい者の社会参加の度合いが計れる

B 補助金が積極的に活用され、外出機会を創出できたかどうかは、申請した団体が指標となるため

C 講習に参加し、有償運送できる者が増えると、障がい者の外出機会が増加すると考えられる

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 人口増加に伴い障がい者数も増加しているため、手当等の財源が毎年増加し続けている。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 心身障がい者の社会参加や外出機会の機会を増やしている
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 利用者を増加させるため、制度の周知を図る必要がある

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 高齢者に実施されている配食サービスを、障がい者も実施するよう検討する。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成29年度中に障がい者への配食サービスを開始する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		障がい者福祉事業										
番号	①	事務事業名	障がい者福祉事務事業		款	3	項	1	目	4	大事業	2	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成28年度			終了（予定）年度		—						

1. 事務事業の目的

対象 ・ 手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	障がい者にかかる事務を正確且つ円滑に進める
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	障がい者の社会参加の促進や自立した生活を支援する

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			2,209	1,317	1,127
		決算			704	853	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
施設外就労依頼件数	件	目標	—	—	—	42	120
		実績	—	—	—	54	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

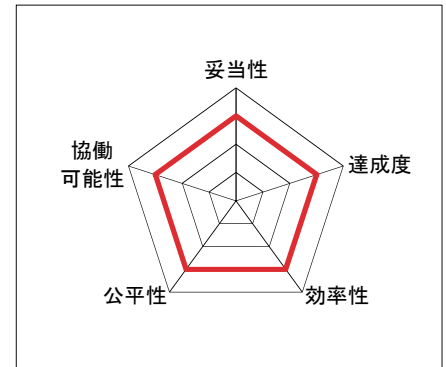
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
H28.12 施設外就労開始

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
新規行政評価対象
(何をどのような状態に改善したのか)
—

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
社会復帰を目指す障がい者に対し、市役所内でできる業務を紹介している

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
業務の種類と参加する課を増やしていくことが必要

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
現在は福祉部内で依頼する業務の募集を行っているが、対象を全庁に拡充する

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		障がい者福祉事業									
番号	②	事務事業名	心身障がい者社会見学事業	款	3	項	1	目	4	大事業	2	中事業	3
事務事業の期間	事務事業開始年度			—			終了（予定）年度			—			

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	障がい者の社会参加を促進するため、障がい者を支援する団体が障がい者を対象に社会見学事業を企画・運営して実施する場合に補助金を交付する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	障がい者の社会参加が促進されたり、自立した生活を送ることにつながるものとしたい。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			300	900	800
		決算			350	513	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
申請団体数	団体	目標	—	3	3	3	3
		実績	—	1	2	2	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

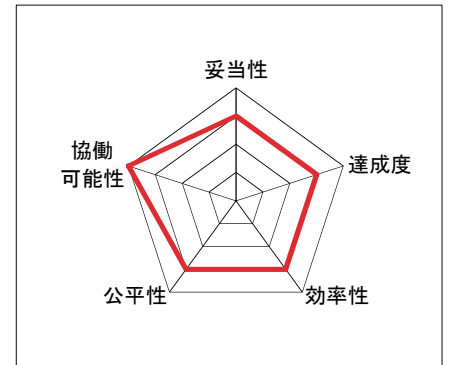
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
今まで市が主催していた社会見学事業を補助事業に変更したが、今後どのような支援が必要か（補助金額を含めて）実施した団体や未実施の団体に聞き取り調査を行う。
(何をどのような状態に改善したのか)
—

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	4



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
2団体が社会見学を実施し、補助金を交付した。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
制度の周知を図り、実施団体を増加させる

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
HPや広報、関係団体の会合等で事業の周知を図る

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		障がい者福祉事業									
番号	③	事務事業名	障がい援護事業	款	3	項	1	目	4	大事業	2	中事業	4
事務事業の期間	事務事業開始年度		—		終了（予定）年度	—							

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	①障がい者に対して手当等を支給する ②福祉有償運送の担い手を希望する者に対し、講習を開催する
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 障がい者の経済的負担の軽減を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			72,567	71,639	72,071
		決算			71,465	72,186	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
有償運送講習参加者数	人	目標	—	—	15	15	15
		実績	—	—	18	10	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

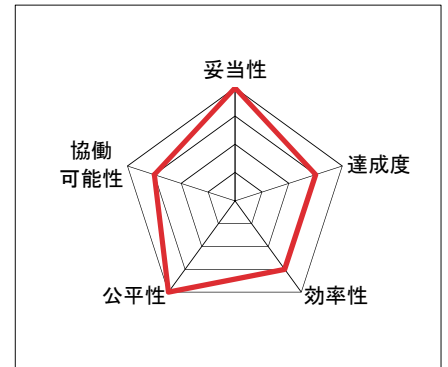
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
人口増加に伴い障がい者数も増加しているため、手当等の財源が毎年増加し続けている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
講習に参加してもらうことにより、担い手のドライバーが増え、障がい者の外出機会創出の助けとなった。
(何をどのような状態に改善したのか)
—

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
愛知県補助事業に繰り入れる前から本市独自で実施していた事業があり、先進的な取り組みができています。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
手当額が毎年増加している。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
毎年増加する費用に対し、今後どのように対応するか検討する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		障がい者福祉事業									
番号	④	事務事業名	障がい者計画策定・評価事業	款	3	項	1	目	4	大事業	2	中事業	5
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成27年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	ながふく障がい者プランにおいて、障がい者自立支援協議会の計画策定部会、評価部会で検討する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	障害者の社会参加や外出機会を創出する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			643	585	1,393
		決算			289	74	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
策定部会実施回数	回	目標	—	—	—	1	6
		実績	—	—	—	1	
評価部会AB判定数	個	目標	—	—	—	12	14
		実績	—	—	—	12	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

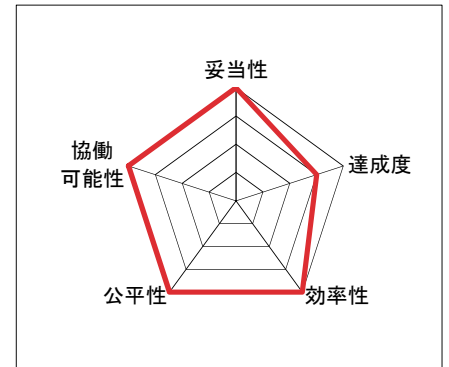
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
これまで計画策定については市役所中心で策定を進めていたが、自立支援協議会を立ち上げたことにより、障がい者や関係者の多くの意見を聞くことができる状況となった。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
評価部会、策定部会を活用しPDCAサイクルを実施する。
(何をどのような状態に改善したのか)
評価部会、策定部会を同メンバーで行うこととした。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	4
公平性	4
協働可能性	4



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
平成30年が改訂の年にあたるため、その準備をするとともに、重点施策の見直しを実施する。また、評価部会で評価を受け、同部会メンバーで策定部会を行うことで一貫した計画づくりとなっている。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
部会の開催をスケジュールどおり実施できていない。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
策定スケジュールを遅延なく実施する。